ほんの森

図書館☎84-3311

図書館休館日
12月29日(土)～1月4日(金)
2月4日(月)～2月7日(木)
毎週月曜日

日曜映画会

『トムとジェリー　ドルーピーといっしょ②』

と　き　1月20日(日)
午前10時・午後2時
上映時間　36分
ところ　2階ハイビジョンホール
定　員　各回　先着100名
※整理券は不要です

金曜映画会

『潮　騒』

と　き　1月25日(金)
午後2時から
上映時間　1時間34分
ところ　2階ハイビジョンホール
定　員　先着100名
※整理券は不要です

文芸

❖俳句

沈黙の籾殻焼や藷の味　浅野　茂子
風邪気味と臥して気になる夕仕度　池田　逸子
猛る火の色を尽せし冬紅葉　伊藤　敬子
冬日向母の背中の灸の跡　今関満喜子
色白の大根百態艶語り　魚地　照子
峡の駅列車待つ間の初時雨　江森　悦子
冬晴れや手術成功万々歳　大谷　武彦
花八ッ手土蔵なまこの深き割れ　川島　孝夫
冬の日や黄卵のよな日が沈む　桑名　大行
鴨の居る湖畔を走る母子かな　向後　寛
釣糸や空まで届け鰯雲　小松　藤男
悪者もいけめんで立つ菊人形　佐瀬　輝夫
月光やすぐの未来を照らしおり　椎名万里子
ボールける一声ごとの息白し　玉虫　栗扇
冬の日や句帳の上のペンの影　戸村　靜華
小春日の縁のもてなし又一人　土屋美枝子
初冬の空の乾きえ鳶の笛　土屋　義昭
手の届くところにありて冬の月　福田　幸子
天龍寺紅葉明りの筑地塀　布施　和代
きらめきて玉涙となり初日の出　山口　一秋
仰臥して渡り行く雁数へけり　渡部　和秋

❖短歌

鮭踊る瀬音さやけき栗山の
拓きし祖らの挽歌聞こゆる
越川　義則

遠き日に芭蕉下りし最上川
雪の降る日に夫と渡れり
高梨　キヨ

幾十年苦楽を共に支え合い
強き絆に生きる幸せ
伊藤　定男

み社(やしろ)の公孫樹は葉も実も黄に染まり
いま豊かなり散りゆく前を
吉岡　信子

「なんだっけ」「ほらほらあれよ」と同年の
友との会話勢(はず)みに弾(はず)む
八角　三枝

鵯(ひよどり)の飛び来る時刻(とき)と木の枝に
柿の実挿して待ちてゐるなり
押尾　輝子

久びさに姉妹のみで来し箱根
富士の高嶺が迎へくれたり
鈴木まさ子

荒荒と海よりの風木を鳴らし
鹿野の山を渡りゆくなり
永籐　滋

合奏もよく揃ひきて大正琴の
発表会のいよよ近付く
平山　芳子

広報を読み聞かすとふ声のボランティア
明かるき短歌(うた)が好きと言ひます
西山満里子

文化勲章受くる主(あるじ)の傍に
盲導犬ルカ侍(はべ)りゐるなり
池田　春江

わが脇を急ぎ足にて通り過ぐ
青年の背中広くたくましく
佐瀬　初音

生前の母が好みし菊膾(なます)
造りて今日は遺影に供ふ
田崎　尚美

けふはまだ散歩に行けぬ飼犬が
催促するがに小屋に吠ゑゐる
芹川　初子

いつしかに秋も深まり庭の木々
紅や黄色に色深みきぬ
長谷川正子

夕つ日は成田山大塔にいま及び
金色光(こんじきこう)を空に放てり
斉藤つね子